

ふるさと歴史アラカルト

岩国城(終) 破却

元和元(1615)年、江戸幕府により一國一城令が出され、各地の大名は、その領国に応じて残せる城以外は全て廃城とし、壊さなければならなくなりました。これにより、萩藩主の毛利輝元が岩国城を壊すように吉川広家に命令しました。それに対し広家は、周防国には岩国以外に城がないため、壊す必要がないのではないかと主張しました。しかし、長門国では、萩城を残すために長府(下関市)にあった毛利秀元の城を壊さなければならず、同格とみられていた岩国の城も壊すように輝元から重ねて伝えられたため、やむを得ず壊すこととなりました。この決断は、関ヶ原の戦いにおいて広家が輝元に無断で徳川家康と講和したことによって、毛利氏内部での感情的不和が心配されたためその配慮もあったといわれています。また、寛永14(1637)年に起こった島原の乱において、壊された城跡が再利用されたことから、石垣についても破壊が命じられました。なお山

上の城郭は失われたものの、御土居は藩主の日常の居館であるとともに政治の中心地としてその後も使われました。このように、岩国城の築城には歴史的背景が大きく影響していましたが、面積が不十分な横山を城地に選んだ結果、城下町の機能を一カ所に集めることはできなくなり、家臣の屋敷や町屋など、城下町を錦見・川西・今津へ分散させて配置せざるを得なくなりました。そして、元和元年の大坂夏の陣以降、大きな戦争の可能性がなくなり、内政が重視される時代になると、城下町の配置による不便が目立つようになりしました。特に、大半の家臣が暮らす錦見と政治の中心地であった横山は、最も密接でありながら、外堀の役目を果たしていた錦川に分断されていたため、一体的な統治を可能とする方法が求められました。錦帯橋の発想はこの解決策となったものであり、延宝元(1673)年の錦帯橋創建によって岩国城下町は完成したといえます。



▲『元朝登城之図』…廃藩まで使われた御土居は、番所7カ所、蔵10棟、井戸10カ所を備えた大規模なものであった上、3方に堀を巡らし、3カ所に矢倉を置くなど、防衛機能も十分に備えていた。
※当時、毛利氏は周防国と長門国の二国を所有していた。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎④0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 143,674 人

男性 68,008 人 女性 75,666 人

世帯 66,826 世帯

※外国人人口を含む(平成25年8月1日現在)

交通事故発生件数 7月分事故件数 49件(364件) 死者数 1人(6人) 傷者数 53人(427人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成25年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎②31234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎②95016 FAX②13337